

## 知事記者会見（平成23年4月12日）

### ●知事発表

- （1）震災後1ヵ月を経て
- （2）企業の受入れについて
- （3）ホッキョクグマ「クルミ」の来県について
- （4）秋田・ソウル国際定期便の再開について

時間：13：01～13：21

場所：プレゼンテーションルーム

---

（幹事社）

知事の方から報告お願いいたします。

---

（知事）

私の方から、今日は4件お話がございます。

昨日で大震災後1ヵ月を経たわけですが、県民の皆様へご報告、感謝、そしてお願いを申し上げたいと存じます。まず始めに、この度の大震災は、あまりにも大きな出来事であり、未だ不明者も数多くおられます。また、多数の家屋をなくされた方が、まだ避難所で暮らしております。改めて犠牲者のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災者の方々の生活の再建、被災地の一刻も早い復興を願うものであります。

そういう中で昨日、北海道・東北地方知事会議がありました。会議では1ヵ月経過をとらえ、復興へ向けての共同アピールをしました。そして政府与党に要望書を提出したところです。秋田の場合、被災はそう多くなかったわけですが、隣県として、支援、復興に向けた協力をしており、その中で重要な2点ほどを枝野官房長官、岡田幹事長にお話ししたところです。特に私から申し上げた点は、雇用対策・経済対策です。今般の被害は東日本全体に及んでおり、従来の災害救助法等、被災地特定型のルールでは限界があります。雇用対策・経済対策については、被災地の都道府県のみならず東日本全体としてとらえるべきではないか、秋田の企業等も直接被災県との取引はなくとも、関連して影響を受けており、その点についてお話ししました。また、電力不足が続くことにより、操業に支障を来し、場合によっては海外に出て行く企業もあり、これは国内産業の空洞化につながるので、一刻も早く政府主導により電力供給と需給のバランスをとるべきでないか、原子力発電へ傾斜する中で、一時計画を中断したり、休廃止している発電所等を至急立ち上げることに

よって一定の目途をつけるべきではないかということをお話ししました。

これまでの本県の経緯ですが、3月11日の14時46分、直ちに災害対策本部を立ち上げ被災地へ消防、医療、自衛隊等が出動し、避難者用の備蓄物資、簡易トイレ等を送ったところ。3月15日からは、おにぎりやトーストを被災地に届けております。自主的避難も含めて避難者の受入、保健衛生、建設土木の技術系職員、養護教諭、避難所運営のための県・市町村職員等の人的派遣もしております。さらに様々な救援、物資搬入等で秋田港や空港の臨時的使用についても県として最大限便宜を図ってきました。私も宮城に2回、岩手に1回行き、知事さん、首長さん方と具体的な情報交換もしています。

そういう中で、衣服等の支援物資、義援金等に加えて、支援物資の仕分け、現地への炊き出し等のボランティアなど、県民の皆様には数多くのご協力をいただいておりますが、その温かいお心に対し、心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。今後復興までは大変長い道のりであり、都道府県、市町村とも、自治体間の連携により、これから県外からの一時避難がある程度続きます。県民の皆さんには是非とも温かくお迎えをして、(避難者が)安らぎを得られるようご協力をお願いしたいと思います。今回の被害は、被害の範囲、被害額、加えて原子力発電所の被災等、大変大きなものであり、復興には20兆円とか30兆円という多額の費用がかかります。被災地のまちづくりも抜本的に変更を求められる等、大変時間を要します。県内企業においても、取引先の会社がなくなったり、あるいは工場が壊れて取引が中断したり等、様々な影響が出てきます。電力不足等により、経済の落ち込みが今後予想されるわけです。公共投資等においても被災地へ国の公共投資の傾斜配分される方向もあります。原子力問題による風評被害等が広まる可能性もあり、一定期間、経済・雇用面で厳しい状況が続くことは避けられないものと思います。

一方、被災地復興に要する各資材、各種サービスへのニーズが高まるものもあります。プラス面、マイナス面、両面がありますので、県としては、このマイナス面を抑え、プラス面を増やしながら復興に貢献することが大切だと思います。既に金融対策等は実行しており、県としてタイミングよく様々な政策を打ち出さなければならないと考えますが、マイナス面をできるだけ抑え、プラス面を増やすという視点に立って、政策を打ち出してまいりたいと思いますので、よろしくご理解をいただきたいと思います。

最後に日常的消費行動の過度な自粛を行わないように呼び掛けたいと思います。震災後、しばらくは停電があったり、物資の不足、交通網の障害、そして何よりも現地で多くの犠牲者など、確かにあの時点における自粛は無理からぬことですが、過度の自粛による県経済の落ち込みは復興への力も損ねるものと考えます。ちょうど年度の変わる時期で歓送迎会のキャンセルがありました。これからお花見シーズン、ゴールデンウィークとなります。こういう中で日常の消費行動の過度な自粛が続きますと大きな社会問題となります。経済の落ち込み、ひいては雇用不安を来すと、せっかく隣県の復興に力を貸したくても、

経済力そのものがだめになります。特に飲食業、ホテル、旅館等は大変です。従業員の解雇や新規就職者の取り消し、入社時期の延長等、経営状況が大変悪くなっております。日本経済は、循環の上に成り立っており、これらは単にその分野の業種のみならず、卸小売や各種サービス業、製造業等、幅広い分野へマイナス影響を与えるものです。電力不足による節電や東日本全体の経済の落ち込みなど様々な制約はありますが、東北が、そして秋田が元気を出すためには、被災地への思いを抱きながらも、過度な自粛行動をやめなければならないと思います。通常的生活パターンを取り戻していただけるよう、県民の皆様には何卒よろしくお願い申し上げます。

次に、企業の受入についてです。2件ございますが、一つは大仙市のデジタルカメラ用レンズ加工の日邦工業株式会社秋田工場です。これは大仙市にあった従来の工場が廃業になった後、去年の12月から試験的に操業していましたが、誘致企業の条件に合致する企業であり、秋田で今後もより幅広い展開を目指すということで誘致企業として認定しました。もう一つは、新屋の株式会社プレステージ・インターナショナルの秋田BPOキャンパス第3です。この度、土地を買い増しし、新たにそのセンターを作るということです。ここは操業時が50人、将来的には360人を想定しており、この企業の社長さんからは、震災の県外からの避難者、被災者、こういう方の就職も大いに引き受けるというご意向もいただいております。この会社の第3番目の事業用建て屋ということであり、これについても受入をすることに決定しました。

次に、うれしいお話でありまして、一つは男鹿水族館のホッキョクグマの豪太君のお嫁さんの受入が正式に決まりました。釧路の動物園からのクルミです。去年の2月に釧路市長と取り決めを交わしましたが、このクルミが4月26日に釧路市動物園を出発し、4月27日に青森港に入り、陸送で男鹿水族館に到着することになりました。大変待ち望んだお嫁さんですので、いろんな催し物をしなければなりません、非常に敏感な動物で、長旅の疲れ等が出てくると体調が悪くなる可能性もあり、環境の変化に対応する能力が低い動物ですので、まずは静かに受け入れ、釧路から市長さんもおいでになるということでございますが、連休明け5月にセレモニー等を企画しております。県民の皆様には、(豪太君の)新しいお嫁さんを温かく迎え入れていただきたいと思います。

もう一つは、この震災により一時運休していた大韓航空の秋田・ソウル国際便ですが、5月2日から再開するという事です。原発問題で韓国からのお客は難しいのですが、仁川経由で海外へ行くお客様が見込めるということで、5月2日から再開するというお知らせが先程飛び込んでおります。大震災の関係ですべて落ち込んでいますが、豪太のお嫁さんとか、ソウル便の再開だとかで明るい話題があるのは大変喜ばしいことですので、早く我々もこういう状況をつくるために努力をしております。以上でございます。

